

学 会 情 報

1. 令和三年度人文科教育学会研究発表会

第 61 回研究発表会（令和三年 4 月 27 日，オンライン）

増田一暁「高等学校国語科におけるコーパスを活用した言語教育に関する研究」

石原雅子「読み深めのための「物語創作」学習指導の研究—中・高等学校国語教科書における物語教材の類型化を軸として—」

第 62 回研究発表会（令和三年 5 月 18 日，オンライン）

吉本紗菜「国語科における読書単元についての考察—リテラチャーサークルを中心に—」

姜旭東「日本の小学校の国語教科書における文学的文章の研究—光村図書の教科書を中心に—」

第 63 回研究発表会（令和三年 5 月 27 日，オンライン）

高木啓生「日中の古典教育のコンピテンシー調査」

小野寺亜希子「感想文『手書き』・『入力』の相違点と『入力』に向けた手立ての開発—批判的思考力の育成に注目して—」

第 64 回研究発表会（令和三年 6 月 15 日，オンライン）

古谷梨菜「外国人生徒への国語科指導の研究—在籍学級での国語科授業参画に向けたケーススタディを通して—」

橋本彩子「文学的文章における「読むこと」の指導の研究」

金ボイエ「韓国の日本語教育史における教授法・教授方針の転換—1900・1910・1920 年代に着目して—」

第 65 回研究発表会（令和三年 6 月 24 日，オンライン）

張天卉「異文化コミュニケーションを通じて言語学習者への勉強動機づけについて」

豊田真考「外国語（英語）検定教科書から見る小・中・高のギャップ—発話・文章の言語的特徴の比較を通して—」

第 66 回研究発表会（令和三年 7 月 8 日，オンライン）

安部拓輝「伝える技能を養う教材開発—探究学習における記者の実践プログラム—」

石原雅子「創作活動を手段とした「読むこと」の指導に関する—考察—学習者の作品分析を中心に—」

第 67 回研究発表会（令和三年 7 月 27 日，オンライン）

ブラッドリー桜ミシェル「国語科におけるマルチリテラシー教育の位置付けに関する．考察と展望」

姜旭東「中学校国語教科書における外国文学作品の中日比較」

第 70 回人文科教育学会大会（令和三年 9 月 5 日、オンライン）

田山享子（筑波大学大学院・共栄大学）「児童の自律的な外国語学習を促す自宅学習の在り方の
検討—指導者が考える必要感の観点から—」

森田真吾（千葉大学）「学校文法」成立過程における指導内容の生成と収斂」

〈基調講演〉

谷口孝介（筑波大学）「ふたつの「古典」」

〈シンポジウム〉

司会：CHEN XIN

登壇者：

細田広人（筑波大学付属中学校）「伝統的な言語文化の継承と主体的な古典読者の育成—中学
校における漢文教育の事例をもとに—」

浅田孝紀（金沢学院大学）「言語感覚の育成と言語文化への接近を軸とする古典教育—「教養
教育という」観点から—」

谷口孝介（筑波大学）

第 68 回研究発表会（令和三年 10 月 5 日 オンライン）

CHEN XIN 「中国の語文科教育課程における古典の位置付け」

高木啓生「高校古典教育の典故を根拠とした読者主体解釈の是非について—「楚辞：山鬼」を
典故とした作品研究を通して—」

第 69 回研究発表会（令和三年 11 月 6 日 オンライン）

金雨欣「在日中国人子どもの教育に関する実態調査について—日本語と母語の学習を中心に—」

古谷梨菜「日本語を母語としない高校生の国語科学習における課題と指導法の研究」

第 70 回研究発表会（令和三年 12 月 7 日 オンライン）

小野寺亜希子「2030 年を展望した高等学校国語科「書くこと」の授業提案」

橋本彩子「文学教育の評価に関する研究」

石原雅子「批評意識の育成に関する研究—文学的文章の指導における創作の機能に着目して—」

第 71 回研究発表会（令和三年 12 月 21 日 オンライン）

増田一暁「高等学校国語科におけるコーパスを活用したデータ駆動型学習に関する研究」

青木勇也「国語科における口語文法指導の方向性の考察—書くことに着目して—」

第 72 回研究発表会（令和四年 1 月 13 日 オンライン）

西川賢「教科書に採用されている教材の選定理由についての考察—『山月記』に着目して—」

吉本紗菜「高等学校国語科における読書指導についての研究」

第 73 回研究発表会（令和四年 1 月 25 日 オンライン）

安部拓輝「実社会の問題改善を目的とした言葉の力の育成—京都府北部の府立高校における新
聞記者の実践—」

豊田眞考「外国語（英語）検定教科書における小・中・高の違い—発話・文章の言語的特徴の比較を通して—」

坂井真智「小学校外国語教育におけるデータ駆動型学習の活用」

第 71 回人文科教育学会大会（令和四年 3 月 20 日 オンライン）

八木雄一郎（信州大学）「高等学校国語科における「古典としての古文」の意味」

勝田光（筑波大学）「国語科における読むことの学習指導の科学的探究：基礎研究，臨床研究，そして科学の実現に向けて」

※平成 20 年度の研究会を第 1 回研究発表会とする

2. 『人文科教育研究』編集規定（平成 2 年 9 月 8 日制定）

1. 本誌は、人文科教育学会の機関誌として、年一回発行する。
2. 本誌は、原則として本会会員の論文等を掲載する。
3. 本誌は、論文、翻訳、書評のほか、学会情報に関する記事も掲載する。
4. 投稿原稿の掲載の可否は、編集委員会の選考によって決定する。
5. 論文等の投稿に関する規定は、別に定める。
6. 投稿原稿の形式・内容の変更・修正につき、編集委員会と執筆者との間で協議を行う場合がある。
7. 編集委員会に関する規定は、別に定める。

3. 『人文科教育研究』編集委員会規定（平成 2 年 9 月 8 日制定）

1. 編集委員会は、会員の中から総会において選出された若干名の委員によって構成する。
2. 編集委員の任期は 2 年とする。但し、再任を妨げない。
3. 編集委員長は、編集委員の互選によって決定する。

4. 『人文科教育研究』投稿規定（平成 2 年 9 月 8 日制定，平成 13 年 9 月 8 日改正，平成 19 年 9 月 22 日改正，平成 22 年 9 月 4 日改正，平成 29 年 9 月 18 日改正，令和 3 年 2 月 28 日改正）

1. 人文科教育学会の会員は、本誌に投稿することができる。
2. 論文原稿は、未発表のものに限る。
3. 論文原稿は、A4 版用紙 1 頁あたり横 43 字×縦 35 行、文字は 10.5point で作成し、原則として 12 枚以内とする。本文には邦文タイトルおよび欧文タイトル、原稿の種類（研究論文、資料、実践論文など）を明記するものとする。
4. 著者名等、著者が特定できるような情報は記さないこと。この条件に抵触する投稿は受け付けない。

5. 投稿は電子メールへの添付を原則とし、人文科教育学会 (jinbunka@human.tsukuba.ac.jp) に送付するものとする。文章は word もしくは PDF を原則とする。
 6. 送付に際しては、氏名（ふりがな、および英語表記）、所属、連絡先（住所・電話番号）を明記するものとする。
 7. 締め切りは3月末日とする。
 8. 本誌への掲載にあたっては、執筆料として15,000円を納入すること。ただし超過ページについては1ページあたり2,000円が追加される。なお掲載時に学生の場合（学生会員および後期博士課程の大学院生など）の執筆料は5,000円とするが、超過ページについては1ページあたり2,000円が追加される。
 9. 掲載された論文は、原則として、筑波大学電子図書館に登録するものとする。
5. 人文科教育学会会計規約（平成29年9月18日制定，令和3年2月28日改正）
1. 本学会の会費は年額5,000円とする。ただし、学部学生および博士前期課程（修士課程）の大学院生については学生会員とし、会費は無料とする。
 2. 本学会の会計年度は、毎年4月1日より始まり翌年3月31日で終わる。決算報告及び予算案は総会において承認及び審議決定される。

6. 人文科教育学会規約細則

昭和63年度第1号 過去2年間会費を納入していない会員は、納入するまで機関誌などの配布を受けられない。本細則は、昭和62年度と昭和63年度の2年間の会費未納者から適用される。

昭和63年度第2号 会費を納入していない会員は、原則として、納入するまで機関誌への投稿ができない。

平成2年度第1号 人文科教育学会からの退会を希望するものは、その旨を人文科教育学会事務局に申し出ることとする。なお、書式については任意とする。本細則は、平成3年度から適用される。

【人文科教育学会役員】(50音順)

顧問	桑原隆	・	湊吉正
会長	甲斐雄一郎		
事務局長	長田友紀		
理事	小川雅子	・	長田友紀
	上谷順三郎	・	高木まさき
	塚田泰彦	・	名畑目真吾
監事	初谷和行		

【令和3年・令和4年度編集委員会】(50音順・○は委員長)

足立幸子（新潟大学）・飯田和明（宇都宮大学）・浮田真弓（岡山大学）・長田友紀（筑波大学）・
甲斐雄一郎（文教大学）・勝田光（筑波大学）・名畑日真吾（筑波大学）・藤森裕治（文教大学）・
森田真吾（千葉大学）・安直哉（岐阜大学）・○柳澤浩哉（広島大学）・渡部洋一郎（上越教育大学）